

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 ハイテックプラザ

所管グループ 地域経済領域産業創出グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	基盤技術の高度化	ニーズ対応型研究開発事業	Niフリー高耐食ステンレス材の開発	ニッケルを使用しない高耐食ステンレス鋼の開発が生体材料分野を中心に求められていることから高強度・高耐食のニッケルフリーステンレス鋼の開発を行う。	ニッケルを含まないフェライト系ステンレス鋼に窒素を固溶させることにより、組織をオーステナイト化し、ニッケルフリーステンレス鋼をつくる。	16	17	B	ニッケルフリーで耐食性の高いステンレス鋼の開発という目的は概ね達成したと見られるが、技術移転についての検討が不十分である。	開発目標はほぼ達成していると判断する。開発製品の特性を明確にして公表し、事業化する企業とのさらなる連携が必要と考えられる。
2	地域特性を生かした技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	音響解析による清酒もろみの発酵状態の判定	清酒もろみ管理を補助するものに香り、色、音、味覚等があり、その中で音がもろみ管理のパラメータとして利用できるよう清酒もろみ解析システムの構築手法を検討する。	清酒もろみが発生する音を音響解析し、そこで得られた特微量と従来測定されていた清酒もろみの成分分析結果などのパラメータとの相関関係を導き、最適な解析システムの構築を図る。	16	17	D	音とBMDとの相関を見出すなど、一定の成果は見られたが、共同研究先の都合により、十分なデータ収集が行えなえず、普及活動に至らなかった。目的である解析システムの構築には更なるデータ収集と解析が必要である。	清酒もろみ管理の観点として香り、色、音、味覚の中から客観的な要素といえる音に着目し、主観を交えずに判定できる項目を取り上げたことはよかったと考えます。いずれにせよ、より多くのデータから得られる相関を求めることが必要であると思われまます。
3	社会環境対応型の新技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	環境対応型加工技術と応用製品の開発	特定の元素及び化合物を配合した抗菌性付加型研磨剤を配布し、効果を実証する。応用製品を開発する。	抗菌性無機材料である研磨粒子を添加した新型研磨剤と研磨技術の開発。業務暖房、ステンレス鋼容器、食品加工機械、医療福祉関連器具等における抗菌製品の試作開発。	16	17	B	抗菌性を付加する技術開発、効果の検証、応用製品としてのパフの開発など目的は概ね達成したと見られるが、技術移転の検討が不十分である。	ステンレス鋼に抗菌性を付加する技術はニーズがあると思うが、その性能や施工法の広報を行いながら、技術実施を進める必要がある。
4	基盤技術の高度化	地域活性化共同研究開発事業	液晶ディンプル型反射板製造法の開発	従来研究を行ってきた高速ミリング技術を応用することにより、理想的な反射特性を持つディンプルパターンを使用した半透過型液晶パネル用反射板製造技術の確立を目指す。	液晶パネルに使用されるディンプル型反射板用マスター板の高速ミリングによる加工からガラス版へのパターン転写までの一連の製造技術を確立する。	16	17	A	液晶パネル用反射板製造技術を確立するという目的は達成したと見られる。提案企業の要求に十分に応えらるとともに、特許出願も行っている。	開発目標は達成されている。企業のニーズに応じて製品化してほしい。
5	社会環境対応型の新技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	亜鉛めっきのノンクロム化成処理技術の実証化研究	従来行われている亜鉛めっきの化成処理法であるクロメート処理に替わり、環境を考慮した、同等の性能を持った全く新しい処理技術を開発する。	これまでの基礎試験成果を発展させ、県内資源の活用を意識した柿タンニン等への応用、県内企業への技術普及を目的としたシアン浴への応用、耐食性、耐候性の更なる向上を目的とした厚膜化、複合化の研究を行う。	17	17	B	一部計画を達成できない部分があるが、バナジン、タンニンに関する課題を概ね解決するとともに、特許を出願している。また、企業の関心も高い。	柿タンニン等を用いた皮膚の性能発現への努力は評価できる。皮膚の耐久性を明示しながら種々の分野における利用を期待したい。